

めざす児童生徒像

- 「やさしく」「かしこく」よりよく生きる子
 ・思いやりのある子 自分よさを認め、互いを認め合い、思いやれる子
 ・自ら進んで学ぶ子 自ら考え、判断し、行動できる子
 ・あきらめずにがんばる子 課題解決に向け、やる気をもって根気よく取り組むことができる子 失敗を恐れずチャレンジできる子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
				教員・アンケート結果 (%)			※差	教員・アンケート結果 (%)			※差		
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)	学校重点項目 楽しい学校づくり	全ての項目において肯定的な意見の児童の割合が80%以上。	① 学校が楽しいと思う。	100	89	96	-11	95	90	96	児童の結果は、どの項目においても中間結果よりよくなった。学校全体で今年度の重点である「自分の良さを認められる子・認め合い信頼し合える集団」をめざして取り組んできた結果であると考え	今年度行ってきた「主体的・自主的に考え、行動できる子を育成する場をつくる」ことを継続するとともに、「自分、学級、学校、地域に誇りを持てる子・集団」となるようにしていく。全教職員で一致団結して取り組む体制づくりをさらに推進する。	
			② 自分にはよいところがあると思う。	90	82	94	-8	95	82	93			
			③ 友だちのよさを認め、なかよくしている。	100	94	96	-6	100	97	96			
			④ クラスや学校をよくするために考えて行動している。	100	84	0	-16	95	88	81			
			⑤	0	0	0	0						
			集計	97.5	87.2	95.3	-10.2	96.3	89.3	91.5			
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目									達成状況の分析	改善策
重点項目 石川県共通	業務の改善 働き方	①の項目において「そうである」と答えた職員の割合が90%以上。 ②③④の項目において「そうである」と答えた職員の割合が80%以上。	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	75				78			先生も子供も元気いっぱいな学校にするために、教職員がゆとりをもって業務ができるよう取組をすすめてきたが、うまくいかなかった。教職員の入れ替えもあり、通常業務以外の業務をこなすにはいけなくなり、疲弊感がたまってしまった。	児童と向き合う時間や放課後の時間を増やすために会議の回数や時間を削減する。話し合う内容を精選したり伝達事項は職員終礼や掲示板を利用したりすることを徹底し会議をコンパクトにする。 学校教育目標達成に向けて、児童や教職員に真に必要な取組を厳選していくために、主任層にPDCAサイクルを回すよう働きかける。職員一人ひとりの努力や取組のよさを認め、自分の職務にやりがいをもてるようにしていく。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100				94					
			③ 組織的な体制づくりや業務の重点化、精選により、働きやすい環境づくりになっている。	60				39					
			④ ワーク&ライフバランスを考え、健康安全を意識した働き方をしている。	70				72					
				76.3				70.8					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	教員・アンケート結果 (%)			※差	教員・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者				
小松市共通重点項目	学校研究	①、②の項目を80%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	70				89				①、②の項目共に目標指標である80%以上を達成することができた。この結果から、教職員全員が意識を高くもち、学校研究を進めていくことができたことが挙げられる。	①の単元構想シートの活用では、評価規準の記入内容をより、子供達の意識に合わせて具体的な文書で記述すると、掲示などの単元計画にもつながっていく。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	90				100						
			集計	80				94.5						
	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	②、④の項目を80%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	95	89		-6	100	89		-11	・②、④の項目共に目標指標の80%以上を達成することができた。2年間全校で取り組んできたクラス会議の成果といえる。相手の意見を大切に最後まで話を聞いて受け止めることや様々な意見を出し合う中でみんなの考えとしてよりよく考えるなど、学級の基礎といえる「学びを支える基盤づくり」ができてきたことがつながっている。日々の授業では、月一回の矢田野つりUPシートや授業改善チェックを活用して振り返り、常に意識して取り組んできたことが結果につながっている。 ・③の項目では、中間70%と低かったが、84%と向上が見られた。資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表するとは、どうなればできているのか教職員間での共通理解を図ることができた結果といえる。	・どの項目においても、聞き方の関係で教職員と児童との差ができていないかと考えられる。児童アンケート内容を児童と共有し、児童と共にイメージをもって学習に取り組んでいく。 ・話し合う活動では、数値は高いものの、話型があると児童がどのように話し合うと良いのか具体が分り、より主体となって授業を進めることができるのではないかと考えられる。	
			② 児童生徒は、学級の友達と間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	90	88		-2	100	85		-15			
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	70	85		15	84	89		5			
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えていく。	85	92		7	100	91		-9			
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	90	89		-1	100	86		-14			
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	85	93		8	95	96		1			
			集計	85	89.3		3.5	97.5	91					
			学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③の平均が、中間80%以上 年度末90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	70				100			
	② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	85							89					
	③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	85							95					
	④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	58							60					
集計	76							81						
家庭学習	①「家で計画を立てて勉強している」②家庭学習で学習用端末を活用する」の項目の割合が80%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。				79	77.1		-1.9	84	77		-7	①家庭学習強化週間以外でも、計画的に学習していけるよう取り組みを考えていきたい。また、自学の内容を充実させるために、土曜日の自学ノートを見せてもらうなどの取り組みも考えていきたい。
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。		74	81.9		7.9	89	66		-23			
		集計		76.5	79.5			86.5	71.5					